

教育と福祉の連携におけるアンケート集計結果（福祉サービス事業所向け）

令和5年12月22日作成

今回の調査対象は20件。うち回答が得られたのは18件であり、回答率は90%となっています。

記述式の回答箇所は主な意見を掲載させていただいています。

設問①-1 ご回答者について教えてください。（複数選択可）

放課後等デイサービスのみ：11事業所

放課後等デイサービスおよび保育所等訪問支援事業所：2事業所

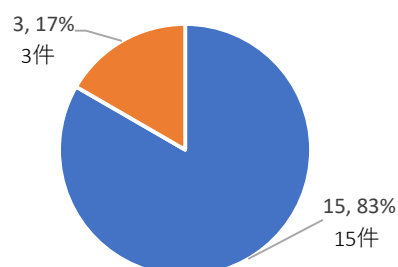
障害児相談支援事業所：3事業所

放課後等デイサービス、保育所等訪問支援事業所、障害児相談支援事業所：1ヶ所

回答者の役職については、管理者 児童発達管理責任者、保育士、相談支援専門員であった。

設問②-1 他機関からの連携や協力についての要請を受けた（した）ことがありますか。

設問②-1



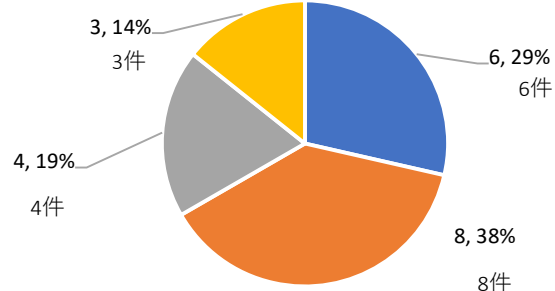
■ はい ■ いいえ

n = 18

設問②-2 ②-1で「はい」と回答した方。それはどのような形でしたか。

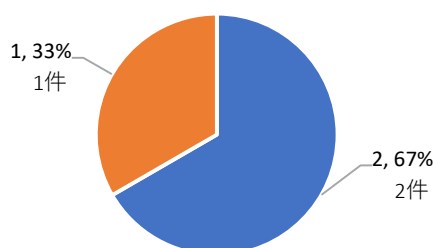
提供されているサービス事業所の質問にご回答ください。

設問②-2 放課後等デイサービス



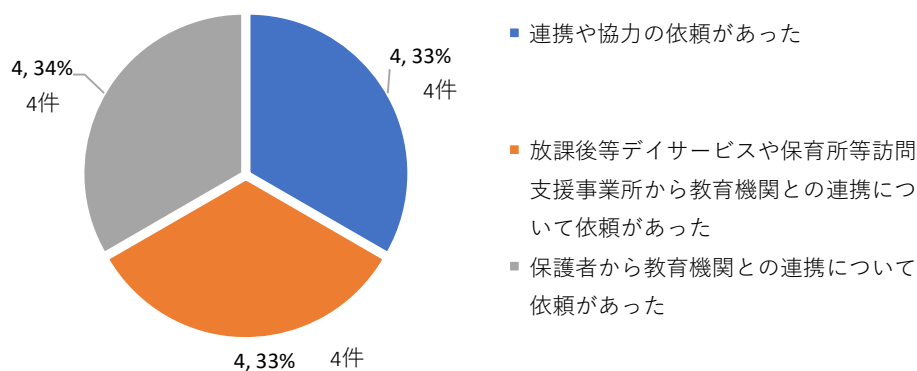
- 教育機関から連携や協力の依頼があった
- 相談支援事業所から教育機関との連携について依頼があった
- 保護者から教育機関との連携について依頼があった
- 自身から教育機関や他機関へ連携や協力についての依頼を行った

設問②-2 保育所等訪問支援



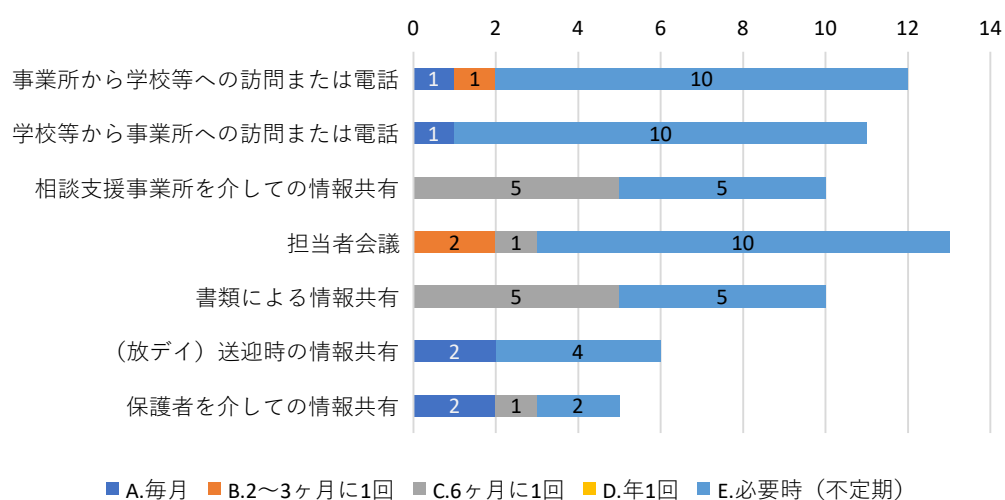
- 保護者から依頼のもと、保育所等訪問支援として連携依頼があった
- 相談支援事業所から教育機関との連携について依頼があった

設問②-2 障害児相談支援事業所



- 連携や協力の依頼があった
- 放課後等デイサービスや保育所等訪問支援事業所から教育機関との連携について依頼があった
- 保護者から教育機関との連携について依頼があった

設問②-3 ②-2に回答した方。実際に実施された連携方法について教えてください。（複数回答可）
またその頻度については以下のA～Eでお答えください。A～Eに該当しない場合は直接頻度をご記入ください



設問②-4 ②-3に回答した方。教育機関と実際に連携して良かったことをご記入ください。

<主な意見>

- ・学校での様子を伺え、同じようなアプローチができた。また、ご家族の様子を把握できた。
- ・情報を共有することにより現状の振り返りや今後の対応、対策等支援に活かしています。
- ・学校での目標、頑張っていることなどを共有し方向性の一致を図り、目標達成を目指すことができた（ex.宿題の適応さ）
- ・定期的様子伺い以外にも、気になることなどがある時は教育機関からも連絡をいただける機会が増えてきたことで話がしやすくなった。

設問②-5 ②-4に回答した方。教育機関と連携して困ったこと（うまくいかなかったこと）があればご記入ください。

<主な意見>

- ・放課後等デイサービスや保育所等訪問支援の制度が周知されていない。管理職や職員が変わるたびに説明を行っている。
- ・保護者から保育所等訪問支援の依頼があっても、日程調整に時間が掛かる。

設問②-6 ②-1で「いいえ」と答えた方。教育機関との連携が必要であると思われる対象者がいますか。

はい：2 いいえ：0 無回答：1

設問②-7 ②-6で「はい」と答えた方。教育機関や他機関との連携を行っていない（連携することが難しい）理由をご記入ください。

<主な意見>

- ・必要とは考えるが、現状は保護者様から細かく情報をもらえていることからこちらからの要請ではしていない。

設問③-1 今後、教育と福祉の連携方法について有効だと考えるものを教えてください。（複数回答可）また、その頻度については以下のA～Eでお答えください。A～Eに該当しない場合は頻度を直接ご記入ください。

連携方法	A.毎月	B.2～3ヶ月に1回	C.6ヶ月に1回	D.年1回	E.必要時（不定期）	その他
訪問	1	2	2	8	0	0
担当者会議	0	0	3	5	7	0
電話連絡	1	1	0	9	0	0
教育機関と福祉事業所での書類交換（共有）	0	0	3	3	4	0
サービス送迎時の引継ぎ（情報共有）	2	1	0	5	0	1
その他	1	0	0	0	0	0

■ A.毎月 ■ B.2～3ヶ月に1回 ■ C.6ヶ月に1回 ■ D.年1回 ■ E.必要時（不定期） ■ その他

設問③-2 今後、教育機関と福祉サービス事業所の連携について何かご要望やご意見があればご記入ください。

<主な意見>

- ・教育関係者や福祉事業所の方の理解も少しずつ深まっている反面、業務的に時間の確保が難しいのも現実だと思います。年に1回からでも良いのでお互いの施設見学から始めるのも良いと思います。
- ・児童を学校、家庭、地域で育てていくという考え方で福祉サービス事業所も学校に協力する体制を構築していかなければならない。
- ・不登校傾向のあるお子さんをお預かりすることが多く、学校と情報共有をさせていただいたり、アドバイスを頂けたりする機会があれば嬉しいです。